

桜島噴火に伴う地上降灰量予測実験



2013年8月18日 16:32～17:12 積算値
 反射因子強度から求めた地上降灰量

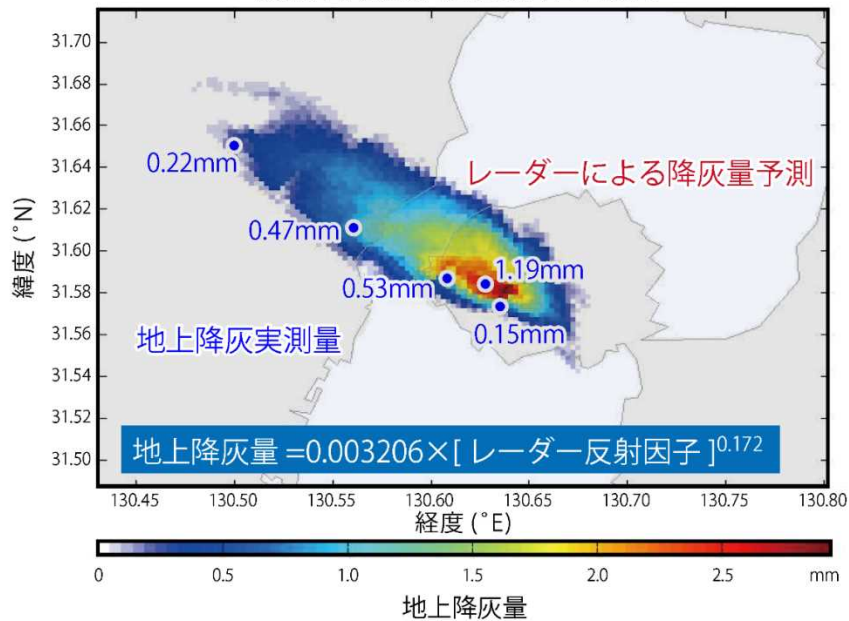


図 13 XバンドMPレーダーを用いた桜島噴火に伴う地上降灰量予測実験

桜島島内から鹿児島市内で降灰があった2013年8月18日に発生した爆発的噴火（噴煙高度5000m）のXバンドMPレーダー画像を解析し、レーダー反射因子時間積算と地上時間降灰量が関係式で表現できることを明らかにした。今後、事例を増やして関係式の高精度化を図ることにより、レーダー画像から高い空間密度で即時的に降灰量の予測を行うことが可能となる（写真提供：気象庁）。